



駿台予備校で初の防衛医大試験を実施

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下1佐）は10月23日（土）、防衛医科大学校医学科学生の試験を防衛医科大学校の試験会場の他に初めて駿台予備校（大宮校）で実施した。

これは、8月28日（土）同校において、初めて防衛医科大学校医学科の説明会が実現でき、説明を聞いた多くの学生から受験希望があった。それを受け、同校の担当から、学内で試験ができないかとの強い要望を受けて実現したものである。

なお、学校の担当者からは、受験者のほぼ全員が医学科を目指しており、その中には防衛医科大学校医学科を第一希望で目指している受験生もいるとのことであった。受験者全員が終始真剣な面持ちで受験しており、ピンとした緊張感が漂う中、時間ぎりぎりまで試験問題に熱心に取り組む姿勢は、多くの合格者が出そうな雰囲気であった。

試験後は予備校側から「来年も引き続き同校での受験をお願いしたい。また、毎年防衛医科大学校の説明会を実施いただき、進学を希望する学生を一人でも多く増やしていきたい。」とのコメントもあった。

埼玉地方協力本部は、今後も各種試験において多くの方々を受験できるように創意工夫を行い、一人でも多くの優秀な人材を獲得し、入隊・入校につなげていくとしている。



予備自衛官五日間招集訓練終了に伴う埼玉地本行事を実施

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下真司一等空佐）は、令和三年十一月二日（火）、朝霞駐屯地において、第三十二普通科連隊第一中隊が担任する予備自衛官五日間招集訓練終了に伴う埼玉地本行事を実施した。

埼玉地本行事は、永年勤続者等の表彰、招集訓練間における優秀隊員の表彰を行うことにより、参加予備自衛官の士気の高揚を図る目的で、五日間訓練の最終日に実施している。

当初の計画では、今年の六月に今年度最初の招集訓練を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、六月から八月までの間の訓練が中止となり、今回が今年度最初の五日間招集訓練となった。行事当日は、五日間の訓練を終えた三十九名の予備自衛官が参加し、事前に即応予備自衛官の制度説明及び志願勧誘を実施し、参加予備自衛官及びその家族や知人からの即応予備自衛官志願者を募った。

行事では、上限任期満了退職者二名への顕彰状の伝達、永年勤続者五名及び本訓練間の優秀隊員一名の表彰の後、山下本部長が日頃の企業等での勤務により多忙な中での訓練への出頭に対し、敬意と感謝を述べるとともに、予備自衛官の国防における重要性をはじめ、災害派遣活動における期待度等について、これまでの経験を踏まえ訓示し、次年度以降の招集訓練への出頭意欲向上を図った。

埼玉地本では、今後とも予備自衛官に寄り添った親身な対応と身上把握により、充足率及び訓練出頭率の向上を図るとともに災害派遣等の招集機会には迅速に対応できるよう様々な施策を講じていくとのことであった。

